



去る6月2日（水曜日）、暑くもなく寒くもなく、ちょうどいいというのはこんな日のことを言うのだろうと思えるような天候の中、1年生がテクテクと『校外学習』に出かけました。行先は、校区内の東野公園。さほど遠くはない距離でしたが、普段は歩き慣れていないのか、到着した頃には疲れた表情の子もチラホラと見受けられました。（実は、先生の中にもそんな人が…笑）



到着後すぐに行われたのは、「交通安全教室」でした。亀山警察署交通課ならびに川崎駐在所のお巡りさんによる熱のこもった話に、皆が聞き入っていました。続いて実施されたプログラムは「班別ウォークラリー」。公園の中を、班行動でチェックポイントを探しながら巡りました。中には、「校長先生をさがしてシールをもらう！」というミッションもあり、すべての班がきちんと私の元にやって来てくれたのでホッとしました。これが終わると、お腹をすかせた子どもたちはお弁当タイム。普段の学校とは全く違う雰囲気の中での昼食は、さぞかし美味しかったのではないのでしょうか（^）o（^）



## 1年生校外学習 仲間づくりもバッチリだ！

午後からは、体育館に戻って「障がい者スポーツ体験」を行いました。当初は、「ボッチャ」という競技を、三重県障がい者スポーツ協会さんの指導で全員が体験するはずでしたが、ここにも新型コロナの影響が……。協会の皆さんをお呼びすることができなくなり、やむなく教師側で複数の障がい者スポーツの種目を紹介し、一部の代表生徒が体験するというスタイルで行いました。それでも生徒たちは、興味深く説明を聞いたり、体験する様子を楽しそうに観たりする姿があったことには、とても感心しました。今後、開催されるであろう「パラリンピック」や、本県で開催予定の障がい者スポーツの祭典「三重とこわか大会」の話も交えた時間となったことで、今後、生徒たちのバリアフリーへの関心が、一段と高まっていくことを期待したいと思います。



フライングディスクの体験



競技用車いすの体験



## 部活訪問⑥

陸上競技部・吹奏楽部

学校だよりの新コーナーとして、「部活訪問」を企画しました。日頃から、各種大会やコンクール、文化祭等への出品などに向け、一生懸命に取り組んでいる様子を紹介します。中には、部長・副部長や顧問の先生へのインタビューも！！  
★コーナー6回目となる今回は、「陸上競技部」と「吹奏楽部」です。

【陸上競技部】顧問：田中陽子先生・奥田祐紀先生・松尾亮太郎先生

＜男子＞部長：豊田玲空とよだれく 副部長：馬場悠太ばばゆうた ＜女子＞部長：伊藤結音いとうゆいね 副部長：井上杏海いのうえあんみ



学年や性別等での差や区別なく、同じ内容の練習を繰り返すのが陸上競技部の特徴。練習を見ているだけでも、その日のメニューを、部員みんなで黙々とこなしていました。「全員がレギュラーとして、各種の大会に出場できるところが、この部の良いところでもあり、難しい部分でもあります」と話すのは、昨年から顧問を務める奥田先生。また、松尾先生は、「練習と休憩のメリハリをつけてほしい」と敢えて苦言を呈しつつも、「自分が学生時代にやっていた競技を指導できてとても楽しい」と笑顔で話してくれました。

この部は、過去に幾度かの全国大会出場、とりわけ2年前には日本一に輝いたスプリンターも輩出しているという中、そんなプレッシャーもあるのかなあとは思っていましたが、少なくとも部員たちは、のびのび練習に取り組んでいる様子。このことは、男子部長の豊田さんが言う、「積極的に行動できることが良いところ」につながっていると感じました。

もう一人の顧問である田中先生は、「周りから応援される部活になってほしい」と言われ、「これは、元顧問の川西先生の頃から、部の方針として受け継がれているもの」とも話されていました。実は、部長の豊田さんも同様のことを言っていたので、部全体に、脈々と「イズム」が浸透しているのだなあとも感じました。

「On Your Marks (オン・ユア・マークス)」「Set (セット)」…  
「バーン！」さあ、全員で夢に向かってダッシュだ！！



左から松尾先生・奥田先生・田中先生

【吹奏楽部】顧問：鈴木教史先生・松尾信子先生 部長：湯浅未咲ゆあさみき 副部長：伊藤澪いとうみお

「自分たちで合奏計画を立てて音楽づくりをしている…そんな部員たちです」と、目を細めながら話す顧問の鈴木先生。3年生9名、2年生15名、1年生10名の、計34名の部員たちは、コロナ禍での練習のあり方という、大きな課題を突きつけられながらも、先生と相談しながら日々の練習に取り組んでいます。もともと、個人レッスンや、少人数でのパート別練習が多かったこともあり、それほど



合奏指導をする鈴木先生は違和感なくできているとのこと。それでも、全員でとなると中々ままならない様子で、運動部と調整して体育館を借りて合奏練習をやったことも。

今年は『三重県吹奏楽コンクール』が、何らかの形で開催されるということなので、まずはそこへ向けてモチベーションを高めていくことになるそうです。クラリネットを担当する部長の湯浅さんは、「今年こそその思いが」と語気を強め、「音楽を通じてつながり合えたことを大切にしたい」とも。もう一人の顧問松尾先生からは、「みんなすごく熱心。芸術（音楽）は自分との闘いだけれど、3年生が自主・自発の気持ちをもって取り組んでいることで、後輩たちがうまく育っています」と、大絶賛のコメントをいただきました。中部中吹奏楽部の新たな歴史の予感が…。



ソーシャルディスタンスで合奏中

※楽譜は「ピンクシャツ運動」を意識したピンク色